

第185号

まちのくすりやさん

今回のおはなし

「若年性白内障」

「インフルエンザ」



若年性白内障に注意

老化現象の一つである白内障。高齢者の代表的な目の病気で、70歳以上は、8～9割がなると言われています。ですが、50歳以下でも「若年性白内障」になる可能性があります。専門家によると、アトピー性皮膚炎の人や、視力を矯正する「レーシック手術」を受けた人は、リスクが高いと言われています。早期発見と治療が重要です。

白内障は、目の中のレンズの役目を果たす水晶体のタンパク質が変性し、白く濁ります。水晶体は近くを見る時は厚く、遠くを見る時は薄くなって光の屈折を調節し、眼底の網膜に映る像のピントを合わせます。ですが、加齢によって水晶体が濁ると、眼底に光が入りにくくなります。視力が低下し、目がかすむ、物が二重に見えるなどの症状が現れます。

近視が強い人や、外傷で強く衝撃を受けた人も白内障になりやすいです。アトピー性皮膚炎もリスクの一つです。目の周辺がかゆくてこするなどして、目が傷つくことや、ステロイド薬の副作用で起きる例もあるということです。

眼内レンズ入れ手術で治療

白内障は、濁った水晶体を超音波で砕いて取り出し、眼内レンズを入れる手術で治療します。そのレンズには、「単焦点」と「多焦点」の2種類があります。

単焦点レンズは、遠くか近くかのどちら一方に焦点を合わせるタイプで、保険が適用されます。ただ、それ以外の距離に焦点を合わせたい時には、眼鏡を使う必要があります。

29歳の時、若年性白内障と診断されたAさんは、右目がかゆくなりやすく、こすり癖があったそうで、突然右目にもやががかかるようになったそうで、手術で単焦点レンズを入れた以降は、よく見えるようになり、問題ないそうです。

一方、多焦点レンズは、遠くと近くの両方にピントを合わせることができます。ただし、保険適用となるのは、手術費用の一部のみです。視力に左右差がある場合などは、見え方に違和感や不快感を覚える例も少なくないそうです。視覚情報が増えて、脳が情報を処理しきれなくなるためです。多焦点レンズを入れた後に不都合を感じ、単焦点レンズに交換を希望する人もいますが、難しい手術になるそうです。

利き目の方に単焦点レンズを入れ、もう一方の目に多焦点レンズをいれる「ハイブリッドモノビジョン法」も近年行われています。

白内障の自覚症状があれば、早めに治療が必要です。レンズは、運転の頻度や、本をよく読むかなど、ライフスタイルに応じて選ぶといいです。

ザ・タバコ

「1本だけお化け」に気をつけて！

禁煙後1週間頃に気が緩むと「1本だけお化け」が出てきます。今まで禁煙できたのだから1本くらい吸っても大丈夫と、お化けの甘いささやきが…。

でも、それが1本で済まないのがニコチン依存のこわいところ。どれだけ禁煙していても**1本吸ってしまえば元に戻ってしまいます**。吸いたい気持ちになった時は別のものを口に入れましょう。飴やガム、氷等でも構いません。歯磨きをする、うがいをする等も効果的です。

1分もすれば吸いたい気持ちがおさまってくるはずです。



この冬のインフルエンザの流行に備え、「今冬のインフルエンザ総合対策」を取りまとめ、国や地方自治体がインフルエンザ対策に取り組むとともに、広く国民の皆様に関する情報を提供し、適切な対応を呼びかけることといたしました。2020年より新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行が継続しています。インフルエンザとの同時流行が発生した場合には、複雑な発生動向を辿ることへの懸念や、発熱時における受診の流れにも一層の注意が必要な状況が考えられます。

季節性インフルエンザのウイルスには、A（H1N1）亜型（平成21年に流行した新型インフルエンザと同じ亜型）、A（H3N2）亜型（いわゆる香港型と同じ亜型）、2系統のB型の4つの種類があります。流行しやすい年齢層は、ウイルスの型によって多少異なりますが、今年も、全ての年齢の方がインフルエンザに注意する必要があります。

厚生労働省 HP より

（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812（月～金：10～15時）

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku_ura_t@urayaku.jp

ホームページ <http://www.urayaku.jp/>